

## 長野県産米生産・流通・消費等検討会議（第2回）（9/26）結果概要

### 1 出席者

生産者2名、集荷業者2社、卸売業者2社、小売業者4店5名、中食業者1社、消費者1名  
オブザーバー 関東農政局食品企業課、関東農政局長野県拠点、県商工会連合会、県農協中央会  
県関係 産業政策監、農政部長・次長、農業政策課長、農業技術課長、農産物マーケティング室長、  
産業政策課企画幹、産業技術課地酒・食品振興担当課長

参考（個別ヒアリング実施事業者 9/19 時点）

生産者1団体6名、集荷業者2社、卸売業者2社、小売業者7社、中食業者2社

### 2 意見交換の概要

#### （1）意見交換会の主な発言（要旨）

##### ①【県内流通の促進】

- ・生産から流通、消費までの連携した取組と情報共有（必要量や生産量の状況等）の仕組みづくりが必要
- ・消費者が選べる（価格、こだわり等）県産米のラインナップの充実
- ・こだわり米、訳あり米などの直売機能を活用推進

##### ②【米の価格】

- ・「食料システム法」の実効性のある運用の実現を国へ要望してほしい
- ・価格の透明性、生産コストを起点とした設定づくり
- ・消費者が分かる情報発信（なぜこの価格なのか）の強化
- ・県産米の付加価値化（価値の見える化）に向け、連携した取組

#### （2）出席者からの主な発言

##### ①【県産米の県内流通の促進について】

###### ○集荷業者：

- ・集荷競争となっているが、出荷先は最終的には生産者の判断となる。
- ・県外卸売業とも縁があり、つながりを切ることはいかない。
- ・コメの農産物検査のみを受け、直売する生産者が増えている実感がある。
- ・情報発信に係るものは、関係者で連携して実施すべき。

###### ○卸売業者：

- ・「長野県産米使用」という標記が増えれば県民の方にも目について印象に残りやすい。ブランド化は、連携して進めるべき。
- ・備蓄米の放出によりブレンド米のニーズが出てきているので、消費者が選びやすく県産米によるラインナップを揃えるようにする。

###### ○小売業者：

- ・県産米の良さ（価値）が消費者などに浸透できていない。
- ・県産米は安心・安全なコメであることを食育活動を通じてPRできないか。
- ・毎年の需要量の把握ができていないので、川上から川下までの情報共有ができないか。
- ・こだわり、訳ありなどの価格の理由をしっかりと伝えることが重要。
- ・不正規な中間業者に対する取り締まりの実施。
- ・県産米を扱っている小売店・飲食店によるPR。

###### ○中食事業者：

- ・生産者（農業法人）と、中長期的な契約を行って、直接仕入れすることを検討。

###### ○生産者：

- ・顔の見える売り方により、安心・安全なコメを安定して供給することが大切。
- ・直売所などで、生産者のこだわりが伝わるコメの販売。
- ・県内向けと県外向けの販売先のバランスを考えることが必要。

###### ○消費者：

- ・国内産か外国産かどうかは気にするが、産地まではあまり意識していないのが実態ではないか。
- ・県産米の良さ（価値）とは何か。浸透していない。

○商工会連合会：

- ・仕入れに係る資金の調達に苦労している。
- ・中小企業振興資金を前借して運用できるようにする。

②【米の価格について】

○集荷業者：

- ・生産者売り渡し価格は、25,000 円/60kg くらいが適正ではないか。
- ・来年6月末民間在庫を考慮すると、価格は下げ基調になるのではないか。
- ・リーズナブルな価格を含めた商品のラインナップが必要であり、極多収品種の開発が必要。
- ・価格に関する消費者の理解を深めるため、ワンデーバイト（1日農業のアルバイト）を活用した作業体験による生産者と消費者との結びつきが必要。
- ・物価にあわせてコメの価格設定ができないか。

○卸売業者：

- ・マージンには必要な経費がかかっていることを理解してほしい。
- ・米袋を活用した県産米のPRが可能である。

○小売業者：

- ・生産者の売り渡し価格が60kgあたり25,000円であれば、小売価格は5kgあたり3,500円となる。
- ・小売価格は、卸売価格（原価）によって、他店などと見比べながら設定する。
- ・食料システム法の効果的な運用の実行が必要。

○中食事業者：

- ・コメは安いものという認識が消費者や自分たちにもあった。
- ・食料システム法の実効性ある運用に期待。

○生産者：

- ・農作業は熊などが出没したり、暑い中でもやらなければならない。
- ・おいしい信州ふード大使などを活用した理解醸成のPRができないか。
- ・生産費を起点とした価格の設定を検討してほしい。

○消費者：

- ・現在のコメの価格は高いというイメージしかない。なぜこの価格になるのかという説明（情報発信）が必要。

○商工会連合会：

- ・なぜこの価格になるのかをしっかりと説明できるようにする。

○JA長野中央会：

- ・生産者の再生産価格と消費者の手ごろな価格にギャップがある。
- ・dayworkアプリは、農作業のアルバイトをマッチング利用者が2万人を超えた。

(2)【農政部長の総括】

- ・生産から流通、消費がそれぞれ協力し合って取り組んでいく必要がある。
- ・消費者に選ばれるラインナップが必要。
- ・意見交換ででた共有部分を整理し、関係者と県による共同宣言ができればと思う。
- ・食料システム法のしっかりとした運用ができるように、国へ要望する。